

【江北町】 校務DX計画

【江北町の現状】

令和6年度に実施された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（速報値）が令和6年12月26日に出された。それによると、江北町では、「職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか」について、100%の学校が「取り入れている」と回答している。また、「学級・学校経営に有効な教育データ等が必要な職位に応じてアクセス権限が設定されているとともに、活用しやすいように整理され閲覧できるか」という問いに100%が「できる」と回答していることから、県で導入された文書管理システムを活用した校務DX化の成果が表れている。職員会議等におけるペーパーレス化も少しずつ進んでおり「完全にペーパーレス化している」学校は50.0%となった。

【課題】

生徒や家庭との欠席・遅刻等に関するやりとりについては活用が進んできたが、保護者からの問い合わせ、学校からのお便り等の配布物等、学校と家庭・生徒を結ぶクラウドの活用については思うように進んでいない。チェックリストの調査でも、「全くしていない」と回答している学校もある。特に「保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか」という問いに対して50.0%の学校が「全くしていない」と回答している。このように、従来の運用から脱却できてない面もあり、管理職をはじめ教職員の校務DX化に対する意識改革が必要などところでもある。

また、「学校から教職員に紙で提出を求めている書類はありますか」「日常の業務にFAXを使用していますか」「業務で押印が必要な書類はありますか」の問いにすべての学校が「ある」と回答している。これらのことから、教職員から学校へ提出する事務手続き上の書類や学校の外部とのやり取りについては見直しを進めていくべき課題等も浮き彫りになっている。

【今後の取組方針】

- 教員と保護者間の欠席・早退連絡については、校務支援アプリ等を活用し、対象者との確実な情報の共有を目指す。
- 職員会議での資料等はクラウド間での共有を行うことを推奨し、保護者への連絡もクラウドやアプリを活用したデータでの提供をベースとすることで、ペーパーレス化を全校で推進していく。
- 次世代型の校務支援システム導入を検討するとともに、不必要な手入力作業を一掃できるような仕組みも構築していく。
- FAXについては、原則使用しない方針を固め、業者等とはメールやシステムを使ったやりとりを推進していく。
- 押印・署名については、証明書等、必要不可欠なものとは削減を図られるものを区別し、過度な押印署名主義をなくしていく努力を行う。